

健康

抗がん剤の点滴が不安

質問 初めて抗がん剤の点滴治療を受けることになりました。抗がん剤は皮下に漏れると怖いと聞きました。が、どのようになるのでしょうか。私は血管が細いので大丈夫なのかと不安です。



三木 幸代
徳島大学病院
がん看護専門看護師

回答

初めて抗がん剤治療を受けられるということ、とても不安な思いをされていることと思います。

抗がん剤が皮下に漏れた場合、必ずしも全てが潰瘍などの皮膚障害を起こすわけではありませぬ。抗がん剤の種類や皮下に漏れた量によっても障害の程度は異なります。

抗がん剤は、皮下に漏れたときの障害の程度によって、壊死性・炎症性・非炎症性の三つのグループに分けられます。壊死性抗がん剤は、少量でも皮下に漏れると皮膚が壊死(体の組織や細胞が局部的

皮下に漏れると後遺症も



に死ぬこと)し、治りにくい潰瘍へと進む可能性があります。

炎症性抗がん剤は、皮膚が赤くなったり腫れたり、痛みだりといった炎症症状を起します。非炎症性抗がん剤は、漏れたとしてもほとんど後遺症は残りませぬ。

つまり、一番問題になるのは、壊死性抗がん剤が皮下に漏れてしまった場合です。どこに漏れたか、どのくらい漏れたかにもよりますが、漏れた後に適切な処置(ステロイドの局所注射など)が行われ

なかつた場合には、重篤な症状や後遺症を残すことがあります。しかし、抗がん剤が皮下に漏れることは、そうたびたび起こることではありませぬし、多くの病院がマニキュアを作成して予防と対策を行っています。

抗がん剤の点滴治療を受けていたときは、注射針が入っている手はなるべく動かさないようにしてください。もし注射針が入っている部分痛くなったり、腫れてきたり、点滴の滴下速度が遅くなったりした場合には、すぐに医師や看護師に知らせることが大切です。数日たつてから症状が表れることもあるので注意しましょう。

抗がん剤治療の前に行う血液検査の際は、抗がん剤治療のために太い血管を残して採血をお願いするとよいでしょう。どの血管から抗がん剤の点滴を行うか、医師や看護師と一緒に選ぶこともお勧めします。

抗がん剤が皮下に漏れる原因はいくつかありますが、今回の相談者のように「細い血管」というのも漏れやすい原因の一つです。血管が細くて

点滴が難しい場合や使用する薬剤によっては、安全に抗がん剤を点滴するために、胸や腕などの皮下に埋め込み式のポートをつくるという方法もあります。

私が勤務している外来化学療法室では「こんなに楽なら、もっと早くポートをつくれればよかった」とおっしゃる方もいます。ただ、皮下に埋め込むため小さな外科的処置が必要となるので、ポートをつくる場合には医師や看護師によくご相談ください。

抗がん剤治療は、がん患者さんにとって、とても大切な治療です。医療者は、患者さんから点滴による苦痛は少しでも取り除きたいと考えています。不安なことは一人で悩まず、医師や看護師にぜひご相談ください。

(第4土曜掲載)

◇ がんに関する質問は徳島がん対策センター(電088(0663)94388)(平日

午前8時半から午後5時まで)にお寄せください。http://www.toku-ganta.isaku.jp/でも受け付けます。

手をなるべく動かさない